

# 高齢心不全患者の『7症候に対する11処方』

症状	補足説明		処方	甘草含有(g)	
高齢心不全患者の	便秘	習慣性便秘	TJ-126 麻子仁丸		
	その他の下部消化器症状	体が冷えやすい	腹痛、腹部膨満感に	TJ-100 大建中湯	
			食欲不振を伴う慢性腸炎	TJ-32 人参湯	3
			上記以外の慢性腸炎	TJ-30 真武湯	
		冷えない場合の下痢	TJ-17 五苓散		
	上部消化器症状	体の冷えが顕著で、食欲不振を伴う胃腸炎症状		TJ-32 人参湯	3
		冷えが顕著でない食欲不振に		TJ-43 六君子湯	1
	倦怠感や回復期の体力増強に	胃が弱い		TJ-41 補中益気湯	1.5
		上記以外		TJ-108 人参養栄湯	1
	めまい	起立性、頭位性 (坐位や起立時、頭を動かした時に増悪する)		TJ-39 苓桂朮甘湯	2
上記以外		TJ-17 五苓散			
下腿浮腫	体が冷えやすい		TJ-107 牛車腎気丸		
	上記以外		TJ-17 五苓散		
心臓疾患(心不全)による症状	顔色がさえず、呼吸困難、浮腫などがある場合の西洋薬による心不全治療の補助として		TJ-36 木防已湯		

参考:大西勝也. 内科開業医のための循環器診療プラクティス. メディカ出版, 2020, p.276-282.

## 証に関わる情報

### 心不全患者の特徴は すいどく 水毒と冷え

#### すいどく 水毒

#### について

漢方用語で「体液の偏在した状態」を指します。水毒の症状には浮腫、下痢、めまいなどがあります。溢水や脱水も含まれ、心不全患者は水毒傾向となりやすいと考えられます。水毒の治療薬を利水薬といいます。利水薬には体液の偏在を是正し正常に戻そうとする働きがあります。例えば、起立性、頭位性のめまいには苓桂朮甘湯、動揺性(クラっとする)、浮動性(フワフワする)のめまいを伴う心不全の症状緩和には真武湯、上記以外のめまいには五苓散を使用します。

#### 冷え

#### について

心不全患者は低灌流、循環障害、加齢などで冷えていることが少なくありません。漢方薬には、温める薬剤が多く存在します。冷えて悪化した病態には、温める漢方薬(温熱薬)を用います(例:大建中湯、真武湯、人参湯、牛車腎気丸など)。心不全患者の慢性下痢には、冷えが関与していることが比較的多く、温熱薬が奏効しやすいケースがあり、腹痛、腹部膨満感を伴う慢性下痢には、大建中湯の使用頻度も高くなります。

**17** ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用) (2014年10月改訂)

効能又は効果 口渴、尿量減少するものの次の諸症：  
浮腫、ネフローゼ、二日酔、急性胃腸力タル、下痢、悪心、嘔吐、めまい、胃内停水、頭痛、尿毒症、暑気あたり、糖尿病

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 口渴ならびに尿利減少を主目標として用いる。 1)浮腫、悪心、嘔吐、頭痛、めまいなどの症状を伴う場合。 2)心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意(抜粋) 副作用

		頻度不明
過敏症 <sup>※1)</sup>	発疹、発赤、痒痒等	
肝 臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP等の上昇)	

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

**100** ツムラ大建中湯エキス顆粒(医療用) (2016年6月改訂)

効能又は効果 腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 体力が低下した人で四肢や腹部が冷え、腹痛、腹部膨満、鼓腸のある場合に用いる。 1)腹壁がうすく軟弱無力で腹の蠕動不安を認める場合。 2)冷えにより症状の悪化する場合。 3)開腹術後の腸管通過障害に伴う腹痛、腹部膨満感。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。] 副作用 副作用発現状況の概要 副作用発現頻度調査(2010年4月～2012年3月)における、3,269例中、64例(2.0%)72件に臨床検査値の異常を含む副作用が報告された。(1)重大な副作用 1)間質性肺炎(頻度不明) 咳嗽、呼吸困難、発熱、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。 2)肝機能障害、黄疸(頻度不明)(別表参照)。

**30** ツムラ真武湯エキス顆粒(医療用) (2013年3月改訂)

効能又は効果 新陳代謝の沈衰しているものの次の諸症：  
胃腸疾患、胃腸虚弱症、慢性腸炎、消化不良、胃アトニー症、胃下垂症、ネフローゼ、腹膜炎、脳溢血、脊髄疾患による運動ならびに知覚麻痺、神経衰弱、高血圧症、心臓弁膜症、心不全で心悸亢進、半身不随、リウマチ、老人性痒痒症

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 新陳代謝が低下して体力虚弱な人で、全身倦怠感や四肢の冷感があり、下痢、腹痛などを訴える場合に用いる。 1)本方の下痢は、裏急後重を伴わない。 2)めまい、身体動揺感、心悸亢進などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2)暑がりでの、ほせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれることがある。] (3)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘等があらわれることがある。] (4)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 重大な副作用 1)間質性肺炎(別表参照) 2)肝機能障害、黄疸(別表参照)。

副作用

		頻度不明
過敏症 <sup>※1)</sup>	発疹、発赤、痒痒、蕁麻疹等	
その他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等	

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

**107** ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒(医療用) (2014年10月改訂)

効能又は効果 疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少または多尿で時に口渴がある次の諸症：  
下腰痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 比較的体力の低下した人あるいは老人で腰部および下肢の脱力感、冷え、しびれなどがあり、排尿の異常(特に夜間の頻尿)を訴える場合に用いる。 1)上腹部にくらべて下腹部が軟弱無力の場合(臍下不凸)。 2)多尿、頻尿、乏尿、排尿痛などを伴う場合。 3)疲労倦怠感、腰痛、口渴などを伴う場合。 4)高齢者の虚弱(フレイル)などで衰弱している場合。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)体力の充実している患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。] (2)暑がりでの、ほせが強く、赤ら顔の患者[心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれることがある。] (3)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘等があらわれることがある。] (4)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 重大な副作用 1)間質性肺炎(別表参照) 2)肝機能障害、黄疸(別表参照)。

**32** ツムラ人參湯エキス顆粒(医療用) (2007年5月改訂)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】  
1. アルトステロン症の患者  
2. ミオパチーのある患者  
3. 低カリウム血症のある患者  
[1～3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

効能又は効果 体質虚弱の人、或いは虚弱により体力低下した人の次の諸症：  
急性・慢性胃腸力タル、胃アトニー症、胃拡張、悪阻(つわり)、萎縮腎

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 比較的体力の低下した冷え症の人で、食欲不振、胃部停滞感、下痢など胃腸機能が低下している場合に用いる。 1)胃腸虚弱、倦怠感、尿が稀薄で量が多い、口中にうすい唾液がたまるなどの症状を伴う場合。 2)腹部が軟弱無力で振水音のある場合。

使用上の注意(抜粋) 重大な副作用 1)偽アルドステロン症(別表参照) 2)ミオパチー(別表参照)。

**108** ツムラ人參養榮湯エキス顆粒(医療用) (2013年3月改訂)

効能又は効果 病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 病後・術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで疲労衰弱している場合に用いる。 1)全身倦怠感、顔色不良、食欲不振などを伴うことが多い。 2)慢性疾患で、微熱、悪寒、咳嗽などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 重大な副作用 1)偽アルドステロン症(別表参照) 2)ミオパチー(別表参照) 3)肝機能障害、黄疸(別表参照)。

**36** ツムラ木防已湯エキス顆粒(医療用) (2013年3月改訂)

効能又は効果 顔色がさえず、咳をともなう呼吸困難があり、心臓下部に緊張圧重感があるもの  
心臓、あるいは、腎臓にもとづく疾患、浮腫、心臓性喘息

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 比較的体力の低下した人が、心窩部がつかえて硬く、呼吸困難、浮腫、動悸などを訴える場合に用いる。 1)口渴、尿量減少などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、軟便、下痢等があらわれるおそれがある。]

副作用

		頻度不明
過敏症 <sup>※1)</sup>	発疹、発赤、痒痒、蕁麻疹等	
消化器	食欲不振、胃部不快感、軟便、下痢等	

注1)このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

**126** ツムラ麻子仁丸エキス顆粒(医療用) (2013年3月改訂)

効能又は効果 便秘

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 体力中等度あるいはやや低下した人の習慣性便秘で、老人や病後の虚弱者に服用される。1)大便是硬く、塊状を呈することが多い。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)下痢、軟便のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] (2)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、腹痛、下痢等があらわれるおそれがある。]

副作用

		頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等	

使用上の注意の一部は、別表にまとめて記載した。  
重大な副作用が無い場合に限り、その他の副作用を示した。

**39** ツムラ苓桂甘湯エキス顆粒(医療用) (2007年5月改訂)

効能又は効果 めまい、ふらつきがあり、または動悸があり尿量が減少するものの次の諸症：  
神経質、ノイローゼ、めまい、動悸、息切れ、頭痛

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 比較的体力の低下した人で、めまい、身体動揺感、たちくらみなどを訴える場合に用いる。 1)息切れ、心悸亢進、頭痛、のぼせ、尿量減少などを伴う場合。 2)心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意(抜粋) 重大な副作用 1)偽アルドステロン症(別表参照) 2)ミオパチー(別表参照)。

表 使用上の注意(複数の処方共通する事項を中心にまとめて記載した) (該当製品番号)

重要な基本的注意	(1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。…④	TJ-32、39、41、43、48、108
	(2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。	
	(3) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。…⑥	
相互作用	(1) ④に同じ (2) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。	TJ-126
	(1) ④に同じ (2) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。フソを含む製剤との併用には、特に注意すること。	TJ-30、107
	(1) ④に同じ (2) ⑥に同じ	TJ-17、36、100
併用注意(併用に注意すること)	薬剤名等：(1)カンゾウ含有製剤、(2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤、(3)ループ系利尿剤 フロセミド、エタクル酸、(4)チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド	TJ-32
	併用注意(併用に注意すること) 薬剤名等：(1)カンゾウ含有製剤、(2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	TJ-39、41、43、48、108
副作用	本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。	TJ-17、30、32、36、39、41、48、107、108、126
重大な副作用	【間質性肺炎】 発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。	TJ-41、107
	【偽アルドステロン症】 低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察(血清カリウム値の測定等)を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。	TJ-32、39、41、43、48、108
	【ミオパチー】 低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、脱力感、四肢痙攣・麻痺等の異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。	TJ-32、39、41、43、48、108
高投薬者へ	【肝機能障害、黄疸】 AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、γ-GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。	TJ-41、48、100、107、108
	一般に高齢者では生理機能が低下しているため減量するなど注意すること。	TJ-17、30、32、36、39、41、43、48、100、107、108、126

**41** ツムラ補中益気湯エキス顆粒(医療用) (2014年10月改訂)

効能又は効果 消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい虚弱体質者の次の諸症：  
夏やせ、病後の体力増強、結核症、食欲不振、胃下垂、感冒、痔、脱肛、子宮下垂、陰萎、半身不随、多汗症

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 比較的体力の低下した人が、全身倦怠感、食欲不振などを訴える場合に用いる。 1)虚弱体質、結核症などの慢性疾患で上記症状を呈する場合。 2)術後、病後、産後、高齢者の虚弱(フレイル)などで衰弱している場合。 3)咳嗽、微熱、盗汗、動悸などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋) 重大な副作用 1)間質性肺炎(別表参照) 2)偽アルドステロン症(別表参照) 3)ミオパチー(別表参照) 4)肝機能障害、黄疸(別表参照)。

**43** ツムラ六君子湯エキス顆粒(医療用) (2020年5月改訂)

効能又は効果 胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：  
胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 比較的体力の低下した人が胃腸機能が低下して、食欲不振、心窩部の膨満感などを訴える場合に用いる。 1)全身倦怠感、手足の冷えなどを伴う場合。 2)腹壁の緊張が弱く、心窩部に振水音を認める場合。

使用上の注意(抜粋) 副作用 副作用発現頻度調査における発現頻度 重大な副作用 1)偽アルドステロン症(頻度不明)(別表参照) 2)ミオパチー(頻度不明)(別表参照) 3)肝機能障害、黄疸(頻度不明)：AST、ALT、Al-P、γ-GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

**48** ツムラ十全大補湯エキス顆粒(医療用) (2014年10月改訂)

効能又は効果 病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血

〈証に関わる情報〉使用目標＝証 病後、術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで、疲労衰弱している場合に用いる。 1)全身倦怠感、食欲不振、顔色不良、皮膚乾燥、貧血などを伴うことが多い。 2)盗汗、口内乾燥感などを伴う場合。

使用上の注意(抜粋) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)著しく胃腸の虚弱な患者[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。] (2)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者[これらの症状が悪化するおそれがある。] 重大な副作用 1)偽アルドステロン症(別表参照) 2)ミオパチー(別表参照) 3)肝機能障害、黄疸(別表参照)。

用法及び用量 通常、成人1日7.5g(ツムラ大建中湯エキス顆粒(医療用)は1日15.0g、ツムラ人參養榮湯エキス顆粒(医療用)は1日9.0g)を2～3回に分ち、食前又は食間経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

\*その他の使用上の注意、組成・性状、包装、承認番号、薬価基準収載年月、販売開始年月は製品添付文書をご覧ください。